

一般演題P2-7

当院の高気圧酸素治療を継続する為の活動

太田雅文 小谷 剛 加藤知子 北山敬晃
三好拓矢 栗山 穰 前田将良 林 裕一
宇治徳洲会病院 臨床工学救急管理室

【はじめに】

当院では2001年6月に第一種高気圧酸素装置(BARA-MED)を導入した。

2005年から臨床工学技士が当直体制を開始し、同時に夜間緊急の高気圧酸素治療(以下HBO)も積極的に対応を開始した。

10年が経過し装置の更新時、酸素中毒様症状を3例経験し安全面を考慮して酸素加圧から空気加圧へ変更した。

2012年の高気圧酸素治療(以下HBO)は、救急適応319回、非救急適応1118回の合計1437回、一日平均3.9回であった。

【背景】

HBOを導入し12年目を迎えるが、まだHBO認定医師が在籍しておらず、HBOを継続する為に臨床工学技士(以下技士)が日々啓蒙活動を行っている。

【内容】

- ①HBO月間目標件数の設定を行い、院内各診療中間、月末件数報告会に参加報告。
- ②担当する技士全員が予定件数を把握、時間枠の設定を行っている。また件数に応じて技士の勤務時間調整する。
- ③定期的に医師、看護師向けの勉強会開催や新入職医師への案内や文献資料の配布を行う。
- ④HBO適応疾患患者が入院された際、昼夜問わず当院の救急救命士からも連絡が入り、主治医へHBO推進活動などを積極的に行っている。

【現状】

- 2009年以降、啓蒙活動により件数および回数増加している。(表1)
- 当院は元々整形外科医師より、HBOの効果を理解してもらっている為、整形外科領域の適応疾患の

依頼が大半を占めている。更に昨年、当院が救命救急センターを取得し、夜間緊急で交通外傷からのコンパートメント症候群の依頼が増えてきている。

- HBO認定医師が在籍していない為、技士、主治医、担当看護師とで患者の状態を定期的にディスカッションしながら、HBO終了時期を決めている。
- 現在、啓蒙活動の成果から歯科口腔外科や救急総合診療科、今年新設された形成外科などからの依頼も増えてきている。

【考察】

第一種高気圧酸素装置1台保有の為、1日で施行できる件数は限られてはいるが、安全にHBOが施行できるよう時間配分には十分に注意を払っている。また24時間体制で救急疾患にも対応している。

HBO総件数は増加しているが、緊急適応件数は横ばい状態である。緊急適応疾患患者の依頼を受けるが、適応期間が外れる事が多い。

啓蒙活動の成果もあり、医師だけでなく他職種スタッフにもHBOの認知度は向上している。

【結語】

HBOの認知度を高める為、様々な啓蒙活動を続けている。しかしながら一部の医師には理解が得られない状況もある。HBOをこれからも継続していく為に適応疾患の拡大や診療保険点数の見直しは必要不可欠であり、更に医師、看護師の学校教育機関でHBOを周知していく必要があると考える。

表1 当院の年間別高気圧酸素治療回数

